




## 審査結果報告書

平成 28 年 1 月 14 日

主 査 氏 名 佐々木 治一郎 

副 査 氏 名 早川 和重 

副 査 氏 名 佐藤 之俊 

副 査 氏 名 佐藤 雄一 

1. 申請者氏名 : 中原 善朗

2. 論文テーマ : Neurotoxicity due to prophylactic cranial irradiation for small-cell lung cancer : A retrospective analysis.  
(小細胞肺癌の予防的全脳照射による神経毒性に関する後方視的検討)

3. 論文審査結果 :

中原君の研究は、限局型小細胞肺癌に対する化学放射線療法後の奏効例に対する予防的全脳照射 (PCI) の臨床効果、認知機能障害、中枢神経障害のリスクを明らかにしようとする症例集積研究である。限局型小細胞肺癌で化学放射線療法を受けた患者 40 例を後ろ向きに解析し、PCI 有り 18 例、PCI 無し 22 例の臨床背景や転帰の比較、PCI 有りの患者群における臨床背景や転帰を比較し、認知機能と歩行障害の有無を細かく分析した。結果として、66 歳以上の高齢者においては PCI 有りの群において有意に認知機能低下と歩行障害が認められた。限局型小細胞肺癌化学放射線療法奏効例に対する PCI は、現在の標準治療 (ガイドライン治療) であるが、本研究は対象者が高齢である場合は、高次脳機能障害・中枢神経障害のリスクが存在する可能性を示している。

発表に対して、①PCI の生物学的放射線照射線量別での解析、②画像や他の指標による PCI の認知機能障害・歩行障害リスク予測の可能性、③認知機能の評価方法、④PCI 前の化学療法レジメン、⑤実地臨床における 66 歳以上の患者に対する PCI の意義、など数多くの質問が出されたが、中原君はいずれの質問にも適格かつ明確に答え、この研究の限界と今後の研究の必要性についても概説した。

以上の経緯から、本研究は PCI という肺がん診療における標準治療においても、高齢者であれば脳機能低下リスクがあることを明示した価値ある業績と判断された。また発表・質疑応答を通して、医学博士に値する十分な見識と学識を有していると評価された。